

平成 19 年 10 月 12 日

定期検査中の 6 号機廃棄物処理建屋内における
非放射性の水の漏えいについて

6 号機は定期検査中ですが、平成 19 年 10 月 11 日、廃棄物処理建屋 1 階に設置された消火系配管の修理工事において、午後 4 時 41 分頃、配管連結部（ユニオン部）の開口部から非放射性の水の漏えいが発生しました。

このため、現場状況を確認した運転員が、ただちに消火系配管の上流側の弁を閉め、漏えいは停止しました。

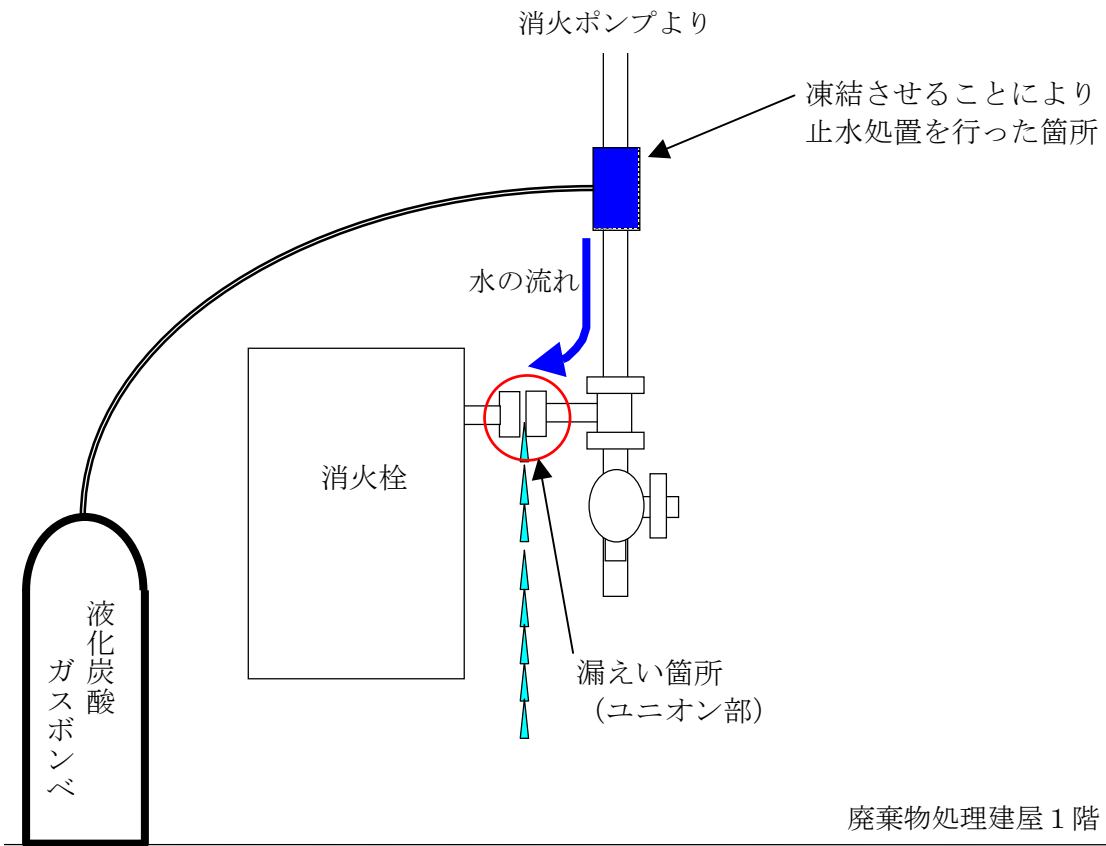
調査の結果、修理工事のための水の止水処置は、ユニオン部の上流側配管部に液化炭酸ガスを吹き付け配管内の水を凍結させることにより行っていました。想定以上に修理に時間を要したため、使用していた液化炭酸ガスがなくなり凍結させた部分が溶けて水が流出し、消火系の非放射性の水がユニオン部から漏えいしたことがわかりました。

今後、液化炭酸ガスを使用した止水処置を行う場合は、修理工事の延長を想定し、十分余裕を持った液化炭酸ガスを準備し実施することとします。

漏えいした水の量は約 3,600 リットル（床面に残った量は約 670 リットル）で、水は同建屋 1 階から地下 1 階および地下 2 階へ流れましたが、液体廃棄物処理設備による回収および拭き取りによる清掃を実施しました。

これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上



6号機廃棄物処理建屋内における非放射性の水の漏えい状況概略図